

## 【臨床指標 7】 感染症および合併症発生率

### ●解説

医療の質の改善に資するため、臨床上ゼロにはなりえないものの少しでも改善すべきものとして定義される感染症および合併症の発生率を示したものです。当然、発症率が低いほうが良いのですが、免疫力が低下しているときに合併して発症することが多いため、コントロールが困難な症例と言えます。

当院においては、入院契機と同一病名の症例が少なく、それ以外の症例が多い傾向にあります。これは、小牧市民病院が尾張北部医療圏における三次救急指定病院であり、重篤な主疾患の合併症として発症しているケースが多いためです。

| DPC    | 傷病名       | 入院契機 | 患者数 | 発症率    |
|--------|-----------|------|-----|--------|
| 130100 | 播種性血管内凝固  | 同一病名 | 8人  | 0.065% |
|        |           | それ以外 | 38人 | 0.309% |
| 180010 | 敗血症       | 同一病名 | 19人 | 0.155% |
|        |           | それ以外 | 55人 | 0.448% |
| 180035 | その他の真菌症   | 同一病名 | 10人 | 0.081% |
|        |           | それ以外 | 15人 | 0.122% |
| 180040 | 手術・術後の合併症 | 同一病名 | 73人 | 0.594% |
|        |           | それ以外 | 11人 | 0.090% |